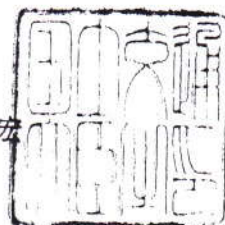


認 定 書

国住指第 2138 号
平成 26 年 10 月 22 日

大和建材工業株式会社
代表取締役社長 岡本 健太郎 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第三号（屋根：各 30 分間）の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP030RF-0227-1(2)
2. 認定をした構造方法等の名称
金属板・イソシアヌレートフォーム保温板・木毛セメント複合板表張／軽量鉄骨下地屋根
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

金属板・イソシアヌレートフォーム保温板・木毛セメント複合板表張／軽量鉄骨下地屋根

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

| 項 目 | 仕 様 |
|------|----------|
| 厚さ | 145.4 以上 |
| 母屋間隔 | 2000以下 |

3. 材料構成

1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

| 項 目 | 仕 様 |
|------------------|---|
| ①荷重支持部材 (たる木) | 一般構造用軽量形鋼 ・規 格 JIS G 3350 ・断面形状 C -100×50×20×2.3の断面寸法以上 ・間 隔 606以下(野地板の目地部は2本使用) |

| 項 目 | 仕 様 |
|-------|--|
| ②屋根葺材 | <p>金属板</p> <p>(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 鋼板</p> <p>1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>1) 鋼板</p> <p>I)～IV)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>I) 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板</p> <p>・規 格 JIS G 3321</p> <p>II) 溶融亜鉛めっき鋼板</p> <p>・規 格 JIS G 3302</p> <p>III) 熱間圧延ステンレス鋼板</p> <p>・規 格 JIS G 4304</p> <p>IV) 冷間圧延ステンレス鋼板</p> <p>・規 格 JIS G 4305</p> <p>2) 両面塗装鋼板</p> <p>I)～III)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>I) 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板</p> <p>・規 格 JIS G 3322</p> <p>II) 塗装溶融亜鉛めっき鋼板</p> <p>・規 格 JIS G 3312</p> <p>III) 塗装ステンレス鋼板</p> <p>・規 格 JIS G 3320</p> <p>・表面塗装・裏面塗装</p> <p>イ)～フ)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>イ) アクリル系樹脂塗装</p> <p>ロ) ポリエステル系樹脂塗装</p> <p>ハ) シリコン系樹脂塗装</p> <p>ニ) アミノアルキド系樹脂塗装</p> <p>ホ) 塩化ビニル系樹脂塗装</p> <p>ヘ) フッ素系樹脂塗装</p> <p>ト) エポキシ系樹脂塗装</p> <p>チ) ウレタン系樹脂塗装</p> <p>・塗布量 片面65g/m²以下</p> <p>(2) 伸銅材</p> <p>・規 格 JIS H 3100</p> <p>(3) チタン展伸材</p> <p>・規 格 JIS H 4600</p> <p>・厚 さ 0.4以上</p> <p>・葺 き 方</p> <p>1)、2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>1) 縦葺(瓦棒葺)</p> <p>2) 横葺</p> |

| 項 目 | 仕 様 | | | | | | | | |
|-----------|---|---------|------------|-----------|------------|---------|-----------|-----|------------------|
| ③断熱材 | イソシアヌレートフォーム保温板 ・規 格 JIS A 9511 (A種の2種) ・厚 さ $20_{\pm 2} \sim 50_{\pm 2}$ ・組 成 (質量%) { <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">イソシアネート</td> <td style="text-align: right;">60± 6</td> </tr> <tr> <td>ポリオール</td> <td style="text-align: right;">31± 5</td> </tr> <tr> <td>添加剤</td> <td style="text-align: right;">9± 2</td> </tr> <tr> <td>発泡剤</td> <td style="text-align: right;">7.5± 2 (外割)</td> </tr> </table> ・密 度 $30_{\pm 5} \text{kg/m}^3$ | イソシアネート | 60 ± 6 | ポリオール | 31 ± 5 | 添加剤 | 9 ± 2 | 発泡剤 | 7.5 ± 2 (外割) |
| イソシアネート | 60 ± 6 | | | | | | | | |
| ポリオール | 31 ± 5 | | | | | | | | |
| 添加剤 | 9 ± 2 | | | | | | | | |
| 発泡剤 | 7.5 ± 2 (外割) | | | | | | | | |
| ④野地板 | 木毛セメント複合板 1)～3)のうち、いずれか一仕様とする 1) 木毛セメント板・炭酸カルシウム系発泡板複合板 [1] 木毛セメント板 ・規 格 JIS A 5404 ・厚 さ 25～50 ・密 度 $0.7_{\pm 0.05} \text{g/cm}^3$ 以上 [2] 炭酸カルシウム系発泡板 ・厚 さ 5～10 ・組 成 (質量%) { <table style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td style="padding-right: 10px;">炭酸カルシウム</td> <td style="text-align: right;">60</td> </tr> <tr> <td>水酸化マグネシウム</td> <td style="text-align: right;">30</td> </tr> <tr> <td>塩化ビニル樹脂</td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> <tr> <td>添加剤</td> <td style="text-align: right;">4</td> </tr> </table> ・密 度 $0.09_{-0.015} \text{g/cm}^3$ 以上 2) 木毛セメント板・炭酸カルシウム系発泡板複合板 [1] 木毛セメント板 ・規 格 JIS A 5404 ・厚 さ 20～50 ・密 度 $0.7_{\pm 0.05} \text{g/cm}^3$ 以上 [2] 炭酸カルシウム系発泡板 (国土交通大臣認定：NM-9426) ・厚 さ 10～20 ・密 度 $0.09_{\pm 0.015} \text{g/cm}^3$ 以上 3) 木毛セメント板・ロックウール吸音板積層板 [1] 木毛セメント板 ・規 格 JIS A 5404 ・厚 さ 20～50 ・密 度 $0.7_{\pm 0.05} \text{g/cm}^3$ 以上 [2] ロックウール吸音板 (国土交通大臣認定：NM-8599) ・厚 さ 9以上 ・密 度 $0.09_{\pm 0.015} \text{g/cm}^3$ 以上 | 炭酸カルシウム | 60 | 水酸化マグネシウム | 30 | 塩化ビニル樹脂 | 6 | 添加剤 | 4 |
| 炭酸カルシウム | 60 | | | | | | | | |
| 水酸化マグネシウム | 30 | | | | | | | | |
| 塩化ビニル樹脂 | 6 | | | | | | | | |
| 添加剤 | 4 | | | | | | | | |

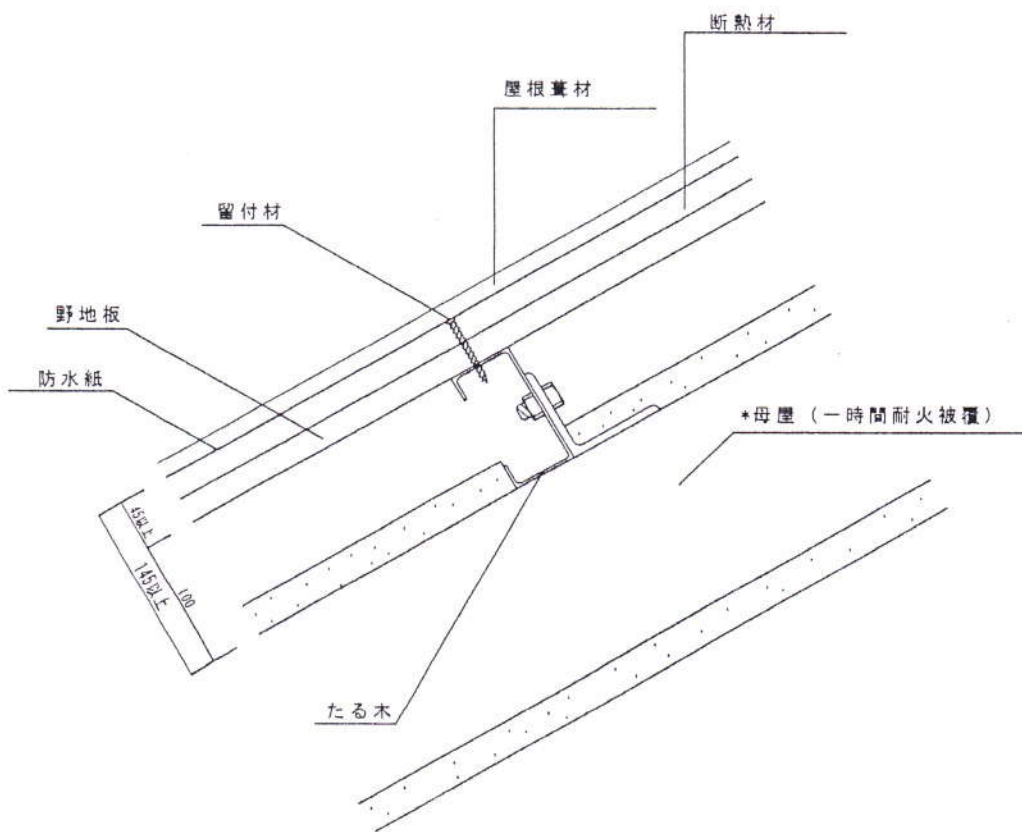
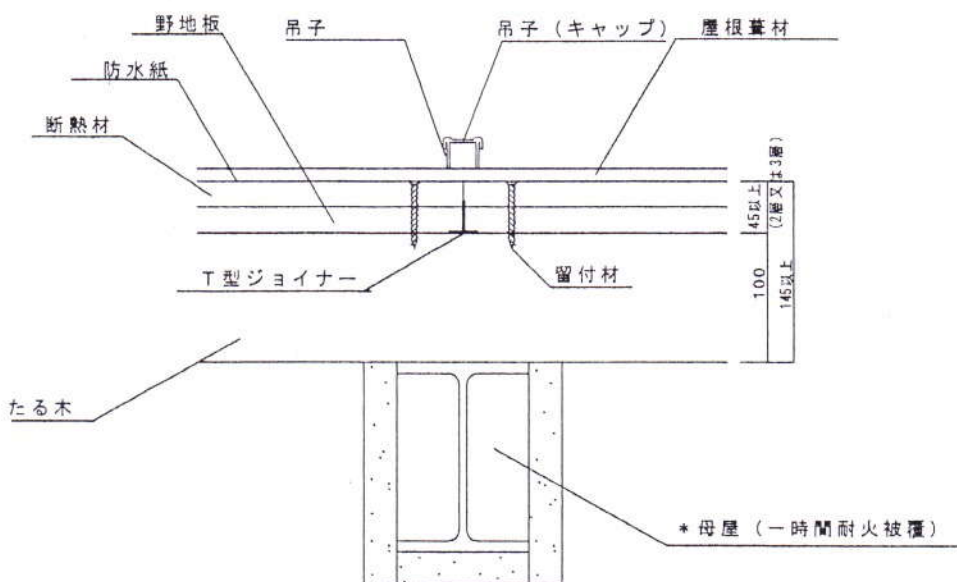
| 項 目 | 仕 様 |
|-----|---|
| ①吊子 | <p>吊子・キャップ</p> <p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1)あり(屋根葺材が縦葺または、横葺の場合)</p> <p>[1]主材</p> <p>1)～9)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>1)塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 ・規 格 JIS G 3322</p> <p>2)溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 ・規 格 JIS G 3321</p> <p>3)溶融亜鉛めっき鋼板 ・規 格 JIS G 3302</p> <p>4)塗装溶融亜鉛めっき鋼板 ・規 格 JIS G 3312</p> <p>5)熱間圧延ステンレス鋼板 ・規 格 JIS G 4304</p> <p>6)冷間圧延ステンレス鋼板 ・規 格 JIS G 4305</p> <p>7)塗装ステンレス鋼板 ・規 格 JIS G 3320</p> <p>8)伸銅材 ・規 格 JIS H 3100</p> <p>9)チタン展伸材 ・規 格 JIS H 4630</p> <p>・厚 さ 0.4以上</p> <p>[2]表面塗装・裏面塗装([1]-1), [1]-4), [1]-7)の場合のみ)</p> <p>1)～8)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>1)アクリル系樹脂塗装</p> <p>2)ポリエステル系樹脂塗装</p> <p>3)シリコン系樹脂塗装</p> <p>4)アミノアルキド系樹脂塗装</p> <p>5)塩化ビニル系樹脂塗装</p> <p>6)フッ素系樹脂塗装</p> <p>7)エポキシ系樹脂塗装</p> <p>8)ウレタン系樹脂塗装 ・塗布量 片面65g/m²以下</p> <p>(2)なし(屋根葺材が横葺の場合)</p> |

| 項 目 | 仕 様 |
|----------|--|
| ②T型ジョイナー | 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規 格 JIS G 3302 ・厚 さ 0.27以上 ・形 状 幅30以上×高さ25以上 |
| ③留付材 | [1] 野地板用 ドリリングタッピンねじ ・規 格 JIS B 1125 ・寸 法 φ5 以上×L55 以上 ・間 隔 455以下 [2] 吊子用 (1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1)ドリリングタッピンねじ ・規 格 JIS B 1125 ・寸 法 φ4 以上×L55 以上 ・間 隔 606以下 (2)なし [3] 防水紙用 ステープル ・寸 法 10以上×足長10以上 |
| ④防水紙 | (1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1)アスファルトルーフィング940 ・規 格 JIS A 6005 (2)合成高分子系ルーフィングシート ・規 格 JIS A 6008 ・厚 さ 1.5以下 (3)改質アスファルトルーフィングシート ・規 格 JIS A 6013 ・厚 さ 2.5以下 (4)透湿防水シート ・規 格 JIS A 6111 ・厚 さ 1.5以下 (5)透湿ルーフィングシート ・厚 さ 0.41以下 ・有機質量 940g/m ² 以下 |

4. 構造説明図

縦葺(瓦棒葺)の場合

(寸法単位:mm)

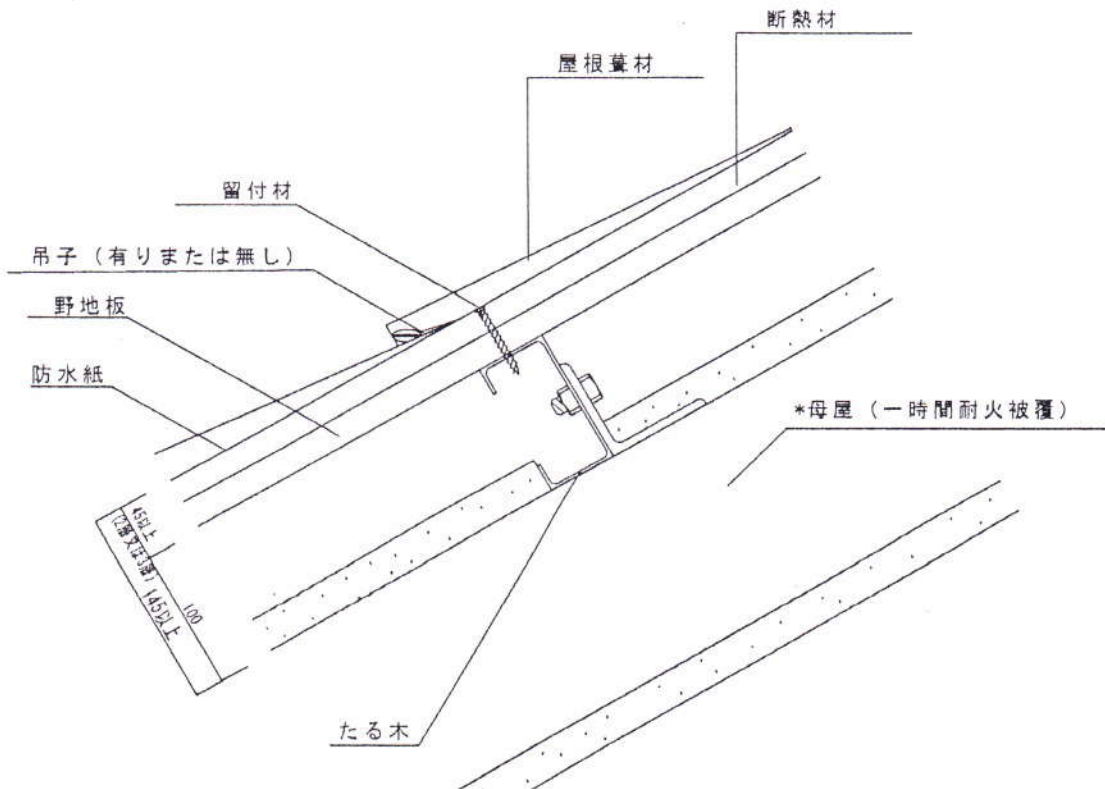
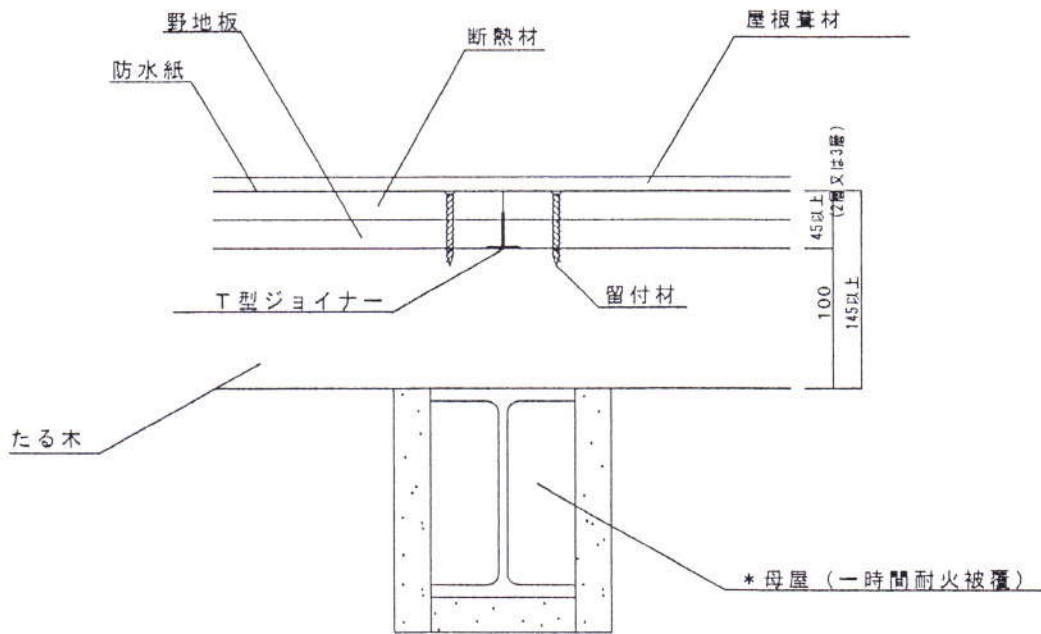


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

* : 本評価内容に含まない

横葺の場合

(寸法単位:mm)



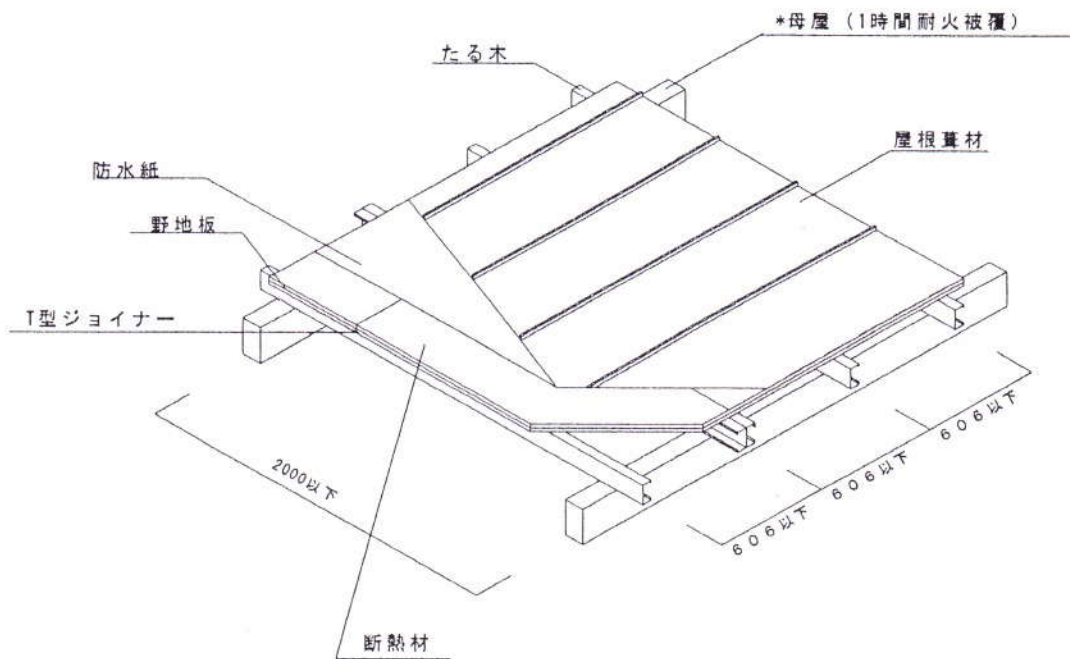
注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

* : 本評価内容に含まない

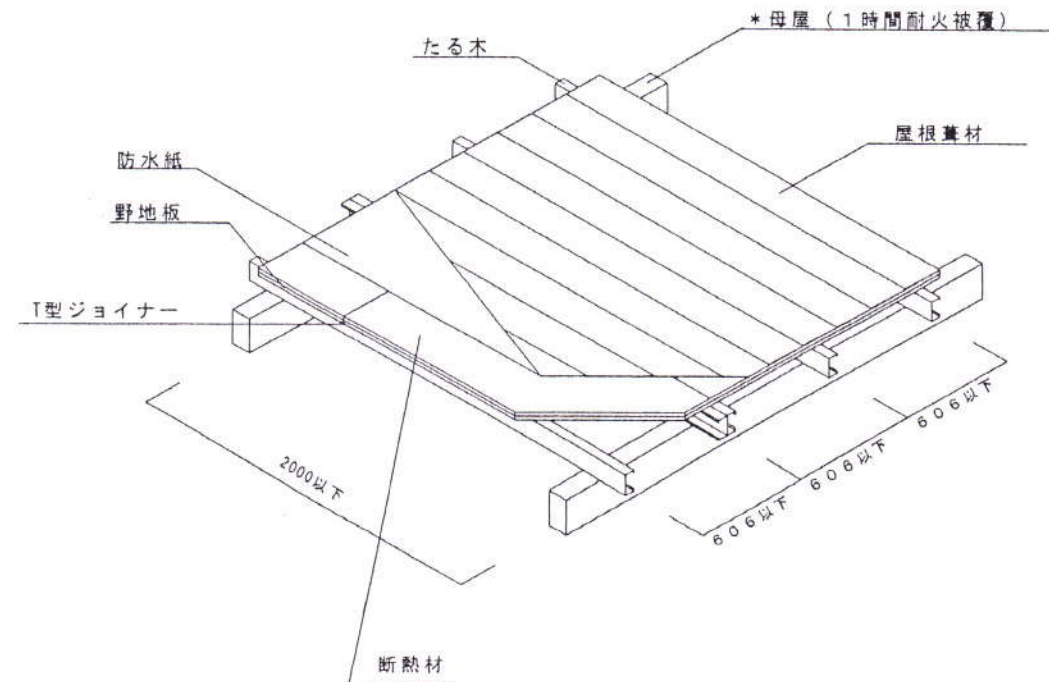
5. 施工方法等

<施工図>

縦葺(瓦棒葺)の場合



横葺の場合



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

* : 本評価内容に含まない

<施工手順>

1) 下地工程

- ・母屋は構造耐力上安全なものとし、耐火1時間の被覆を施す。ただし、平成12年度建設省告示第1399号第4号三号の二の規定に該当する場合には、耐火被覆をしなくてもよい。
- ・たる木を606mm間隔以下に留付ける。

2) 野地板施工

- ・割付に従って、野地板を敷込み、たる木と直行方向の目地にT型ジョイナーを入れる。
- ・野地板を留付材で留付ける。

3) 断熱材施工

- ・割付に従って、断熱材を敷込む。
- ・断熱材を留付材で留付ける。

4) 防水紙の施工

- ・野地板の上に防水紙を施工する。

5) 屋根葺材の施工

5)-1 縦葺(瓦棒葺)の場合

- ・防水紙の上に吊子の位置を墨出しする。
- ・吊子をタッピンねじで野地板及びたる木に固定する。
- ・葺材を吊子に固定する。

5)-2 横葺の場合

- ・吊子無しの場合は防水紙の上に屋根葺材を留付材にて固定する。
- ・吊子有りの場合は防水紙の上に屋根葺材を吊子を介して留付材にて固定する。